

氏 名 相見 正史
学位の種類 博士 (医学)
学位記番号 甲第442号
学位授与年月日 平成27年4月8日
審査委員 主査 教授 和田 孝一郎
副査 教授 齊藤 洋司
副査 臨床教授 藤代 浩史

論文審査の結果の要旨

睡眠障害は胃食道逆流症の合併症の一つとして重要視され、逆流症状を有する睡眠障害例でのプロトンポンプ阻害剤 (PPI) の有効性が報告されているが、有さない例では検討が行われていない。申請者らは睡眠障害例の中に逆流症状を有する例がどれくらい存在するか、逆流症状を有する例と有さない例でPPIに対する反応性が異なるか否かを明らかにすることを目的として、プラセボ対照の多施設ランダム化二重盲検比較試験を行った。2010~12年の期間、島根大学医学部附属病院および関連施設の外来患者で、睡眠障害があり睡眠導入剤を希望する176例を対象とした。1:1の比率で2群に割り付け、オメプラゾール20mgまたはプラセボを2週間投与し、4種の自己記入式アンケートを用いて酸逆流症状に関連するQOLと睡眠障害の改善度を評価した。評価対象は171例で、逆流症状を有する例は69例、有しない例は102例であった。逆流症状を有する例では、プラセボと比較してオメプラゾールが有意な睡眠障害改善作用を示したが (ピッツバーグ睡眠質問票総合得点: 基礎値 9.3 ± 0.5 投薬後 7.9 ± 0.5 $P < 0.01$)、有さない例ではプラセボと比較してオメプラゾールの有効性は認められなかった (基礎値 8.9 ± 0.6 投薬後 8.6 ± 0.7 NS)。本検討から睡眠障害例には逆流症状を有する割合が高いこと、逆流症状を有する場合PPIが睡眠障害に有効であることが明らかとなった。この結果は睡眠障害の治療における薬剤選択の幅を広げる有用な成果と考えられる。